

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
220222031	公衆衛生学実習 Public Health Practicum	岡田 瑞恵			1	選択	2後期

**科目の概要**

四大精神の実践を通し、社会で自立し生きるために必要なスキルやリテラシー力を獲得し、人々の健康面を支援できるよう専門的知識と技能を身に付けた管理栄養士の育成を目指す(DP1・2・3・4)。さらに、社会人基礎力・pisa型学力を実践し、潜在能力を開花させ、地域や国際社会が抱える共通の課題に貢献できるよう努める人材を目指す(DP5・7)。そのため、この科目では健康管理概論、公衆衛生学Ⅰ・Ⅱの講義を通して学んだ知識を実践的に習得する。主として健康管理、環境衛生、産業衛生に関する測定を通して、環境が我々の食と健康に密接に関係していることを理解し、グループワークにて協働して実習を行う。その過程で見いだされた課題は、AIを含むICTなどを活用し理解に繋げる(DP6)。

学修内容	到達目標
① 測定値から考察することを学ぶ。 ② 基本的な環境衛生測定の方法を学ぶ。 ③ 環境が食と健康に大きな影響を与えることを理解する。 ④ 健康管理概論、公衆衛生学Ⅰ・Ⅱによって学んだ知識を実測値に繋げて理解する。	① 実測値から考察することができる。 ② 基本的な環境衛生の測定を行うことができる。 ③ 環境が食と健康に関連していることを理解することができる。 ④ 健康管理概論、公衆衛生学Ⅰ・Ⅱによって学んだ知識を実測値と繋げて理解でき、健康維持のために活用できる。

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**      **学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

前に踏み出す力	主体性	環境衛生に関する多くの知識を理解して得られた情報を整理できる。授業内容に不明な点があれば、自己学修により積極的に行動して解決できる。ICTを用いた情報の収集・活用を通して主体的に学修をすすめることができる。
	働きかけ力	
	実行力	AIなどのICT技術を活用して課題が解決できる。ICTによって収集した情報を整理し、正しい情報を選択・活用でき、考察力に繋げることができるとともに、自らの目標に向けて専門性を高めることができる。
考え抜く力	課題発見力	公衆衛生や環境に関する今後の課題を見つけ出し、具体的な対策を明確にすることができる。疑問点や理解不足の内容について、調べた内容をノートにまとめて知識を習得することができる。
	計画力	グループ内で時間内に作業が終了するよう、コミュニケーションをとり、協働的に遂行することができる。
	創造力	文献や関連情報を読み、批判的な検討ができるようになる。それを踏まえ、自らの対案を提示することができる。
チームで働く力	発信力	身近な公衆衛生や環境に関して問題提起ができ、整理した内容を適切な表現で発信することができる。
	傾聴力	講義や演習を集中して受講し、意見や質問を発することができる。学習した知識を基に、自らの意見を述べるすることができる。
	柔軟性	
	情況把握力	グループワークにおける課題に対し、積極的に協働して遂行できる。
	規律性	実習時間は個人のみが所有する時間ではないことを理解し、グループで課題解決に向けて遂行することに支障をきたす行動を慎むことができる。
	ストレスコントロール力	グループで遂行する課題が多いため、お互いコミュニケーションを取り、ルールを守り、危険な行動を慎むことができる。

**テキスト及び参考文献**

テキスト：毎時実習プリントや必要資料を配布する。  
 参考書：アタゴイエイジング 健康実習学～予防医学の視点から～  
 梶原俊典 編著 (丸井出版)  
 シンブル衛生公衆衛生2025 鈴木正英 監修 (南江堂)  
 オープンアクセスアーカイブ  
 (資料)  
 愛知学泉大学 (レポートの書き方のコツ(文章構成編・文章表現編・引用編・参考文献の探し方(書き方編))  
<https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/colatelier/documents/>  
 (オンライン授業) (開講中)  
 飲料衛生学入門～リストの知見を暮らしに～ (東北大学)  
[https://lim.guvcv.org/courses/course.php?id=2022\\_01/about](https://lim.guvcv.org/courses/course.php?id=2022_01/about)

**他科目との関連、資格との関連**

「公衆衛生学実習」は、専門基礎分野の社会・環境と健康の「健康管理概論」「公衆衛生学Ⅰ」および「公衆衛生学Ⅱ」で学修した内容を踏まえ実践的に学ぶ科目である。  
 資格との関連：管理栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> <li>不明な点はそのまま残さず、自己学修の習慣を身につける。</li> <li>グループワークで進められていくため、コミュニケーションを充分に取り、滞りなく進める。グループメンバーは助け合い、協働して進める。</li> <li>レポートは文献データや基準値等と比較しながら考察することも学修しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験後のレポートは、主となる評価対象物です。必ず提出することを守って下さい。</li> <li>実験内容に関係の無いことは、危険を招くことがあります。自分が何をすべきかを考え、行動して下さい。</li> <li>携帯電話の電源を切ってカバン内にしまっておいて下さい。</li> <li>googleクラスルームを通して、資料の配布や連絡を行います。</li> </ul>

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント			
学修成果	学期末試験	0	①				
			②				
			③				
			④				
	平常評価	小テスト	0	①			
				②			
				③			
				④			
		レポート	70	①		✓	・実習レポートの内容を鑑み、以下の到達レベルをもって判定の基準とする。 知識の活用(40%/70)：測定原理を理解した上で学修した内容を活用し、レポートをまとめることができる。 課題解決(60%/70)：考えエビデンスと照らし併せ、レポートの考察・推論を導き出すことができる。 S：論旨に矛盾がなく構成される。分析において、測定原理を理解し説明できている。また、測定値から多面的に考察することができている。自らの考察を含め書かれている。 A：レポート構成に矛盾がない。分析において、測定原理が説明できている。ディスカッションの内容が自らの考察を含め記載されている。 B：レポートの構成および測定値からの自らの考察ができている。 C：測定の流れが説明できている。 F：Cのレベルに達していない。
				②		✓	
				③		✓	
				④		✓	
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		20	①	✓	成果発表は半期内容の総括として行い、以下のように評価する。 知識の獲得(50%/20)：目的・方法において、測定原理の理解および説明がされている。 知識の活用(50%/20)：獲得した知識を用い、身近な課題に置き換え、適切な解決策や方向性を示すことができる。到達度として以下の通り評価する。 S:100～90% A:89～80% B:79～70% C:69～60% F:59%以下		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	受講姿勢(30%/10)、実習内課題(70%/10)で総合的に評価する。 (主体性) 実験内容について理解する。疑問点は、自己学習など積極的な行動を通して解決できる。 (実行力) 課題に積極的に取り組み、文献やICTにて関連書籍を見つけて読み、適切な引用ができる。 (課題発見力) 公衆衛生や環境に関する今後の課題を検索し、調べた内容をノートにまとめて知識を習得できる。 (創造力) 文献や関連書籍を読み、多面的な視点で検討ができる。 (発信力) 身近な公衆衛生や環境に関する課題に対し、適切な解決策を発信することができる。 (傾聴力) 集中して講義に参加し、学習した知識を基に自らの意見を述べるができる。 (規律性) 決められた時間内にグループ内でコミュニケーションを取りながら、課題を遂行できる。		
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>本実習は、実験内容を把握し参加することが必須です。評価は実習報告レポート、実習内課題、プレゼンテーション、社会人基礎力によって評価する。レポート、授業内課題は主とする評価対象であるため、提出は必須である。提出物の内容を総合的に評価し、特に優れているものをS(秀)：レポートは、遂行された実習・実験内容ばかりでなく、自ら調べた根拠などと比較しながら考察がなされているもの、または、それに準じたもの。ディスカッションの展開から結論まで、矛盾無く構成されており、自らの考察を含め書かれている。</p> <p>A(優)：レポートは、自ら調べた内容とともに考察がなされている。または、それに準じたものとする。ディスカッションの内容が自らの考察を含め記載されている。</p> <p>(小テスト) S:90～100%の到達度、A:80～89%の到達度</p>	<p>B：実習レポートは課題が理解され、ディスカッションの内容が自らの考察を含め記載されている。</p> <p>C：実習レポートは、構成上必須な項目が欠けることなく記載されている。</p> <p>(小テスト) B:70～79%の到達度、C:60～69%の到達度</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション ・実習に関する注意事項 ・成績評価について ・主な使用器具の使い方について ・実習レポートの書き方	講義 googleクラスルームを通して授業プリントや資料の配布を行う。質疑への対応は直接またはgoogleクラスルームにて行う。	・レポートの構成、書き方を理解でき、来週以降のレポート提出に反映させることができる。	来週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおくとう良いでしょう。 オープンエデュケーション：東北学院大学(レポートの書き方のコツ/文章構成編・文章表現編・引用編・参考文献の探し方&書き方編)参照 <a href="https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/colatelier/documents">https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/colatelier/documents</a> を読む。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
2	身体状況と健康 ・不快指数の計算 ・血圧、脈拍、酸素飽和度、アルコールパッチテスト ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料の配布を行う。質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	ヒトの温熱感覚に影響を及ぼす温熱の4要素について説明できる。	次週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおくとう良いでしょう。 第1週の実習レポートの書き方をふまえ、今週の実習レポートを作成する。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
3	ストレスの測定(1) ・ストレステスト 疲労感VAS評価、Chalder Fatigue Scale(主観的評価)、心理的ストレス反応尺度SRS-18、唾液アマラーゼの測定 ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料の配布を行う。質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	物理的、化学物質による、心理社会的ストレスについて、例を挙げて説明できる。	次週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおくとう良いでしょう。 次週レポートのために振り返りやデータ整理を行うておくことを奨めます。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
4	ストレスの測定(2) ・負荷前後の動体視力の測定 水道法と残留塩素の測定 ・遊離残留塩素(DPD法)および結合残留塩素(KI法)の測定 ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料の配布、PCRシートの配布を行う。質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	水道法の水質基準を理解することができる。	次週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおくとう良いでしょう。 2週分のテーマに従い、まとめてレポートを作成する。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
5	水の分析(1) 河川水の測定：定性・定量測定 ・河川水の採取、気温および水温、透視度、臭気度、pHの測定 ・河川水当日採取のCOD, BOD, 亜硝酸態窒素, アンモニア態窒素 ・結果報告	講義・実習・プレゼンテーション googleクラスルームを通して授業資料の配布を行う。質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	水質汚濁の原因は人為的なものが多いが、そのようなケースが考えられるか説明ができる。	次週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおくとう良いでしょう。 次週レポートのために振り返りやデータ整理を行うておくことを奨めます。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
6	水の分析(2) 河川水の測定：定量測定 ・河川水一週間後のCOD, BOD, 亜硝酸態窒素, アンモニア態窒素, 電気伝導度の測定。 ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料の配布を行う。質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	河川水の汚濁指標について、数値の高低と汚濁度の関係を理解する。	次週の週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおくとう良いでしょう。 2週分のテーマに従い、まとめてレポートを作成する。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
7	疫学の方法(1) コホート研究と症例対照研究 疫学の方法(1) コホート研究と症例対照研究の理解とリスク比、オッズ比、寄与危険度などの実践	講義・演習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料の配布を行う。質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	コホート研究と症例対照研究の特徴を理解できる。	時間内にできなかった場合は、計算ワークシートを補完し次週発表できるようにしておくことを奨める。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
8	疫学の方法(2) 計算ワークシート内容の発表およびフィードバック	演習・発表・計算シートのフィードバックを行う。 googleクラスルームを通して授業資料の配布を行う。質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	相対危険度、寄与危険度、寄与危険割合、オッズ比を理解し活用できる。	国試の頻出部分でもある相対危険度、寄与危険度、寄与危険割合、オッズ比などの方法を振り返り、活用できるようにしておくことを奨める。 授業中に行った2週にわたるワークシートは授業終了時に回収する。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	環境と健康(1)屋内環境 ・騒音、照度、紫外線、放射線 ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料・PCRシートの配布を行う。 質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	照度の概念と作業内容に伴う必要な照度を理解する。	次週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおく和良好的でしょう。 次週レポートのために振り返りやデータ整理を行っておくことを奨めます。		主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
10	環境と健康(2)屋外環境 ・照度・紫外線・放射線・騒音・風速 ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料、PCRシートの配布を行う。 質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	騒音レベル、年間被曝量の限度について理解する。	次週の週の実習プリントに目を通し、行う内容を掴んでおく和良好的でしょう。 2週分のテーマに従い、まとめてレポートを作成する。		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	残留洗剤(1) 検量線の理解と調製 ・検量線のための標準液の調製	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料の配布を行う。 質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	検量線の理解と活用ができる。	次週のプリントの予定内容をよく読み、把握しておく。 前週と今週の実習レポートをまとめて作成する。		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	残留洗剤(2) サンプルの測定 ・サンプル調製と検量線および吸光度測定 ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料、PCRシートの配布を行う。 質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	用いたエチルバイオレット-キシレン法について原理を理解し、説明ができる。	次週の実習プリントに目を通し、測定の流れをつかんでおく和良好的でしょう。2週分のテーマに従い、まとめてレポートを作成する。		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13	食品と健康：DPPHラジカルの測定 ・サンプルによるDPPHラジカル消去測定 ・結果報告	講義・実習・グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して授業資料、PCRシートの配布を行う。 質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	ラジカルとは何か、疾病との関連について説明できる。	次週のプレゼンテーションの構成を各自が練っておくと、グループワークが捗るでしょう。		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
14	プレゼンテーション準備 ・グループワークによる選択された実習項目について構成を考え、発表媒体の作成を行う。	グループワーク・ディスカッション、ICTの活用 googleクラスルームを通して授業資料、PCRシートの配布を行う。 質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	プレゼンテーションの準備を遂行するため、班内で自分の質問・意見を発言でき、作業に貢献できる。	時間内にできなかった部分は、次週までに発表が出来るよう媒体や発表内容を準備しておくことを奨める。 googleクラスルームに発表用スライドを提出しておきましょう。		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	発表 ・実習内容の各担当におけるプレゼンテーション ・ディスカッション	グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッション・評価 googleクラスルームを通して授業資料、PCRシートの配布を行う。 質疑への対応は、直接またはgoogleクラスルームにて行う。	各班による発表に対し、質問や意見、考えを述べるができる。	各班の発表内容を聞き、半期の振り返りを行います。		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力